

「深く学んで世界に貢献するた
めにも、まずは日本語能力を磨
くことを勧めます」とある。わ
たしも同意見である。わたしの
場合、前にも書いた池田喜美子
先生とのふれあいがなによりで
あった。国語の授業を通じての
情操教育であった。松浦市の民

死ぬと祝った時代である。親も
日の丸の旗のちようちん行列で
子どもを戦場に送った。親の本
音はいかばかりであったか。あ
の時代に帰ることだけは反対で
ある。

わたしの家は小田急線の向ヶ
丘遊園駅近くにある。平成22年
と笑う人もいた。嘘といわれて

東日本大震災に遭遇した。大き
く揺れるテレビ画面、すべてを
のみ込んでいく巨大な津波、そ
して安全神話が崩れた原発。衝
撃に襲われつつ本を書いた。こ
こでストップすれば、もう書け
ないことは長い経験で知ってい
た。だから、平成23年の3月12
日と13日の朝刊と夕刊は読まず
じまいで永久保存版とした。読
めば書けなくなるのは分かって
いた。

岡本太郎の姿見た

話ミュージカルもそれであった
と自負している。

は暑い夏だった。クーラーを付
けて寝た。朝、4時半ごろに自
然の風を入れるべく窓を開け
た。わたしの寝室の山ひとつ向
こうに「川崎市岡本太郎美術館」
がある。布団の傍らに目をやる

も仕方がない仕事をしている。
劇作家である。劇作家とおおか
み少年は似ている。常日頃、嘘
ばかり書いているといざとな
った時に困る。嘘をドラマとい

「見知らぬ女が ふと振り返
る残暑たそがれ」遊園。たそが
れとは「たれぞ彼」の意味らし
い。たそがれの時代があった。
戦争時代である。村の人も学校
の先生も教え子や村人が戦争で

くまっていた。「だれ」「俺だ
始めた。本が佳境に入った頃に

それから「太陽の塔」を書き

1970年、「太陽の塔」の
大阪万博の年に、わたしは劇団
「空間演技」を結成している。
岡本一平、かの子、太郎の親子
関係にはすごいものがある。子
供時代、太郎はすでに海外と行
ったり来たりをしている。